

はじめに

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故から6年が経過し、避難市町村における避難指示の解除と復興に向けた取組が進んできております。

一方、相双地域の子どもたちの取り巻く環境は大きく変化し、長引く避難生活の影響により、肥満や体力の低下、う蝕の増加等が懸念されております。

県では、平成26年度より、保健福祉部、農林水産部、教育庁が連携し、「ふくしまからはじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業」を推進してまいりましたが、相双地域におきましても、定期的に「子どもの食を考える相双地域ネットワーク会議」を開催し、管内の子どもたちの健康課題や食育推進について、関係機関と協議を進めてまいりました。

その取組のひとつとして、尚絅学院大学の協力のもと、相双地域の幼稚園・保育所・認定こども園を対象として、食育の取組状況や子どもたちの健康状況、また、子どもと保護者の食習慣や生活習慣に関する実態調査を実施し、報告書を作成しました。

本報告書が、各々の関係機関において、これからの相双地域の子どもたちや保護者の食育を進めるうえで、少しでも参考になれば幸いです。

終わりに、調査に御協力いただきました相双地域の幼稚園・保育所・こども園の関係者及び保護者の皆様、調査票の検討に御協力いただきました本会議ワーキング部会構成委員の皆様、尚絅学院大学の先生方に、厚く御礼を申し上げます。

平成29年3月

福島県相双保健福祉事務所長 飯沼 秀敏